

笹川保健財団 地域啓発活動助成

助成番号：2022－0010

2023 年 2 月 27 日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜 多 悦 子 殿

2022 年度笹川保健財団地域啓発活動助成 活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

地域の方々に在宅療養について知っていただき、自分がどのように生きていきたいのかを考える機会とし、これから人生会議を大切な方としていただくきっかけを作る。

所属機関・職名 一般社団法人 居笑 在宅看護センターびりーぶ 緩和ケア認定看護師

氏名 吉田美佳

1. 活動の内容・実施経過

（広報活動）

2022 年の 12 月ごろから、自治区の方々へのお知らせをしていくために、回覧板の使用ができるのか自治会長へのコンタクトを取っていく。近所の方々へ調査をし、回覧板の利用が不可だったため、近所の方へチラシを配布する。東与賀町包括支援センターのケアマネージャーへ相談に来られる方に講習会のお知らせを依頼した。介護施設や連携先の医院への広報活動を行った。

（講習会）

講習会内容：①ACP の概要、目的の説明

②日本老年学会の ACP 動画の視聴

③ACP の方法についてパンフレットを作成したもので説明した。

④参加された方に感想やご意見、ACP の経験の共有の時間を設けた。

（第一回）2023 年 1 月 29 日

参加人数 利用者さん、当看護師を含め、自治体の民生委員会長参加された。

計 7 名参加

（第二回）2023 年 2 月 12 日 参加者おらず開催を断念。

（第三回）2023 年 2 月 26 日

利用者さん、当看護師、東与賀町包括支援センターケアマネージャー、連携先のケアマネージャー、介護士。計 8 名参加

2. 活動の成果

医療者関係者のみ ACP について認知できていたが、地域の方は認知されていない。利用者さんは病気を患った後であり、元気なうちに話し合っていればよかった、家族を看取った経験のある方は ACP を行っていなかったため、本人の意思を想像しながら治療や療養場所の選択をされていた。今後は健在している家族への ACP を話し合っていきたいという意見があった。ACP を取り組まれていた方は、本人の意向に沿って、治療や療養場所の選択ができたことを参加者の皆さんへお伝えしてもらい、上記の感想やご意見を情報の共有することできた。

民生会長のご意見をいただき、自治会長や老人会とのコンタクトや地域包括支援センターとの連携をして、ACP 啓発活動に繋げていくのが広がりやすいと指導を受けた。また、地域性もあってコミュニティが良好でないことを教えていただき、内容的にネガティブに捉える方もおられるので、「大切な方のために悩まずに代弁してくれるように皆さん ACP を行いましょう」という方向性で啓発活動を進めていくといいのではとアドバイスを受けた。テーマの中にある「自分の家で最期の時まで過ごせます」の内容は、動画の内容に含まれていたが、最期の療養場所は、自宅や病院、施設を選ぶことができますという補足説明を行った。花苗は、参加者の皆さんへ多年草を選んだ理由や花を見てこの ACP の講習会を思い出して頂いて、大切な方と ACP（人生会議）をしていただきたいことを説明した。

アンケート用紙は準備していたが、ACP 動画の視聴の後のご意見や感想をこれまでの経験を話していただき、アンケート内容と重なったので、実施しなかった。

3. 今後の課題

自治会長や老人会長とのコンタクトが取れたので、2023 年 3 月に老人会の集会所へ行き、在宅療養や ACP について講習会予定。地域の方は、講習場所に来訪されるのは難しいと感じ、今後は、公民館などの集会所へ出向くようにしていく。一人での活動より、地域活動家や私たち医療者と協力しあって、地域の方へ ACP の取り組みを広げていきたい。

4. 活動成果等の公表予定（学会、雑誌）

今後 5 年間 ACP 普及のための地域啓発活動を行い、ACP についての実施されたことがあるかを調査していき、日本ホスピス・在宅ケア研究会へ発表したいと思います。